

令和 4 年度

教育委員会 点検と評価
報 告 書

加東市教育委員会

目 次

1	本報告書について	1
2	教育委員会の活動及び運営状況	
	（１）教育委員会委員	1
	（２）教育委員会の開催状況及び付議された議案等	1
	（３）教育委員会以外の主な活動状況	5
3	基本理念と施策体系	8
4	令和４年度 主要事業の点検と評価	10
	基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～	
	基本的方向（１）「確かな学力」の育成	11
	基本的方向（２）夢や志を持ち挑戦する力の育成	15
	基本的方向（３）「豊かな心」の育成	19
	基本的方向（４）「健やかな体」の育成	23
	基本的方向（５）インクルーシブ教育の充実	27
	基本的方向（６）幼児教育の充実	29
	基本方針Ⅱ 子どもの学びを支える教育環境の整備	
	基本的方向（１）学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	32
	基本的方向（２）家庭・地域の力を生かした教育の充実	36
	基本的方向（３）学校施設の整備と就学支援	41
	基本方針Ⅲ 人生 100 年時代の到来を見すえた生涯学習の推進	
	基本的方向（１）多様な学習機会の充実	44
	基本的方向（２）人権教育・啓発の推進	48
	基本的方向（３）文化芸術の振興	50
	基本的方向（４）文化財の保護と活用・継承	53
	基本的方向（５）生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	56
	基本的方向（６）社会教育施設及び社会体育施設の効率的な管理・運営	59
	基本的方向（７）図書館サービスの充実	61
5	評価委員所見	63

※ 「９ 実施計画と指標」において、「小学校」には「義務教育学校前期課程」を、「中学校」には「義務教育学校後期課程」を含みます。
また、取組の内容や指標についても、対象としている小学校または中学校の学年には、義務教育学校における該当する学年を含みます。
(例：「児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３」には、義務教育学校６年生、９年生を含みます。)

1 本報告書について

教育委員会が行う事務の管理及び執行状況については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条により、毎年、点検及び評価を行い、その内容を議会に提出し、公表することが義務付けられています。

また、この点検及び評価は、教育委員会の権限に属する事務が対象となりますが、この点検及び評価については、「第 3 期加東市教育振興基本計画（以下、「第 3 期基本計画」という。）」の評価・見直しとしても位置付けており、第 3 期基本計画に基づく取組についても点検及び評価を実施することとします。

なお、点検及び評価については、自己評価を行った上で、外部有識者の意見聴取会を実施しました。外部有識者の所見は、本報告書に記載しています。

2 教育委員会の活動及び運営状況

（1）教育委員会委員

区 分	氏 名	任 期
教 育 長	藤 本 謙 造	令和 3 年 5 月 27 日～令和 4 年 6 月 27 日
	藤 原 哲 史	令和 4 年 6 月 28 日～令和 6 年 5 月 26 日
教育長職務代理者	田 中 寿 一	令和 3 年 5 月 27 日～令和 7 年 5 月 26 日
委 員	藤 本 洋 二	令和元年 5 月 27 日～令和 4 年 5 月 26 日
	藤 原 哲 史	平成30年 5 月 27 日～令和 4 年 5 月 26 日
		令和 4 年 5 月 27 日～令和 4 年 6 月 27 日
	後 藤 純 子	令和 2 年 5 月 27 日～令和 6 年 5 月 26 日
	岸 本 恵 一	令和 4 年 5 月 27 日～令和 5 年 5 月 26 日
	別 惣 裕美子	令和 4 年 6 月 28 日～令和 8 年 5 月 26 日

（2）教育委員会の開催状況及び付議された議案等

○第 1 回定例教育委員会（4 月 26 日）

番 号	案 件 名
第 1 号議案	加東市滝野地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱制定の件
第 2 号議案	加東市教育委員会委員の辞職の同意について
第 3 号議案	附属機関等委員の解嘱及び委嘱の件
協議事項 1	加東市体育施設条例の一部改正について
そ の 他	令和 3 年度教育委員会の点検と評価について
そ の 他	加東市学校 I C T 環境整備計画について
そ の 他	第 3 期加東市教育振興基本計画に基づく～社会教育事業実践への手引き～について
そ の 他	小中一貫校整備状況について

そ の 他	令和4年度新規重点事業について
そ の 他	附属機関等委員の委嘱及び解嘱について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可4件

○第2回定例教育委員会（5月27日）

番 号	案 件 名
第4号議案	加東市教育委員会教育長の職務代理者に関する規則制定の件
第5号議案	加東市教育委員会就学援助規則の一部を改正する規則の一部を改正する規則制定の件
第6号議案	附属機関等委員の任命の件
第7号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
協議事項2	学習者用端末購入について
そ の 他	加東市教育委員会ハラスメント防止指針の一部改訂について
そ の 他	小中一貫校の整備状況について
そ の 他	附属機関等委員の委嘱について
そ の 他	新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる対応について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可2件

○臨時教育委員会（6月13日）

番 号	案 件 名
第8号議案	加東市教育委員会教育長の辞職の同意について
第9号議案	加東市教育委員会委員の辞職の同意について
協議事項3	加東市社地域小中一貫校建設工事請負契約締結について
協議事項4	加東市立東条学園小中学校駐車場整備ほか工事請負契約締結について

○第3回定例教育委員会（6月28日）

番 号	案 件 名
第10号議案	加東市滝野図書館の臨時休館及び加東市中央図書館の臨時開館の件
第11号議案	加東市滝野複合施設及び加東市地域交流センターの臨時開館の件
第12号議案	加東市東条西ふれあい館の開館時間の延長及び臨時開館の件
第13号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
協議事項5	加東市地域交流センター条例の一部を改正する条例制定の件について
そ の 他	専決処分の報告の件（和解及び損害賠償の額を定めること）について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可9件

○第4回定例教育委員会（7月27日）

番 号	案 件 名
第14号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
第15号議案	加東市立図書館協議会委員の任命の件
第16号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
そ の 他	附属機関等委員の解嘱及び委嘱について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	小中一貫校開校に向けての小小交流について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可10件

○第5回定例教育委員会（8月26日）

番 号	案 件 名
第17号議案	教育長の営利企業等への従事について
第18号議案	加東市文化財保護審議会委員の委嘱の件
第19号議案	令和5年度に使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択の件
協議事項6	令和3年度教育に関する決算について
そ の 他	附属機関等委員の委嘱の件
そ の 他	令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可5件

○第6回定例教育委員会（9月27日）

番 号	案 件 名
第20号議案	加東市滝野公民館の臨時開館の件
第21号議案	加東市東条公民館の臨時休館の件
第22号議案	加東市立図書館の臨時休館の件
第23号議案	加東市立図書館の臨時休館取り消しの件
第24号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可8件

○第7回定例教育委員会（10月27日）

番 号	案 件 名
第25号議案	教育財産の用途廃止の件について
そ の 他	令和4年度「トライやる・ウィーク」実施状況について
そ の 他	小中一貫校整備状況について

そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 8 件
-------	---------------------------

○第 8 回定例教育委員会（11 月 25 日）

番 号	案 件 名
第 26 号議案	加東市立図書館規則の一部を改正する規則制定の件
協議事項 7	加東市立小中学校及び義務教育学校児童生徒用机椅子購入について
協議事項 8	公の施設の指定管理者の指定の件（加東市社会体育施設）について
そ の 他	令和 4 年度加東市立学校教職員人事異動方針について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	社地域小中一貫校校訓・校章・校歌について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 4 件

○臨時教育委員会（12 月 9 日）

番 号	案 件 名
第 27 号議案	加東市学校給食センター規則の一部を改正する規則制定の件
協議事項 9	加東市立東条学園小中学校駐車場整備ほか工事変更請負契約締結について

○第 9 回定例教育委員会（12 月 27 日）

番 号	案 件 名
第 28 号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 4 件

○第 10 回定例教育委員会（1 月 27 日）

番 号	案 件 名
第 29 号議案	加東市立図書館の臨時開館及び臨時休館の件
第 30 号議案	加東市立図書館の臨時休館の件
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 1 件

○第 11 回定例教育委員会（2 月 24 日）

番 号	案 件 名
第 31 号議案	加東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件
第 32 号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
第 33 号議案	加東市滝野地域小中一貫校建設の設計方針について

第 34 号議案	加東市部活動あり方検討委員会設置要綱の制定の件
協議事項 10	加東市立東条学園小中学校駐車場整備ほか工事変更請負契約締結について
協議事項 11	加東市体育施設条例の一部改正について
協議事項 12	加東市コミュニティセンター東条会館条例の一部改正について
協議事項 13	令和 5 年度教育に関する予算について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整理に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
そ の 他	加東市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部改正について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 1 件

○第 12 回定例教育委員会（3 月 24 日）

番 号	案 件 名
第 35 号議案	加東市教育委員会就学援助規則の一部を改正する規則の一部を改正する規則制定の件
第 36 号議案	加東市教育委員会就学援助要綱の一部を改正する要綱制定の件
第 37 号議案	加東市（教育委員会）個人情報保護に関する法律施行細則の制定の件
第 38 号議案	加東市立図書館における防犯カメラの設置及び運用基準の一部を改正する訓令制定の件
第 39 号議案	教育財産の用途廃止の件
第 40 号議案	教育委員会附属機関等委員の委嘱の件
第 41 号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
第 42 号議案	加東市滝野複合施設規則の一部を改正する規則制定の件
協議事項 14	加東市社地域小中一貫校建設工事変更請負契約締結について
そ の 他	附属機関等委員の委嘱について
そ の 他	加東市発達サポートセンター条例施行規則の廃止について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
そ の 他	社地域小中一貫校校章デザインについて
そ の 他	令和 4 年度教育委員会点検と評価について
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 3 件

（3）教育委員会以外の主な活動状況

教育委員会委員は、教育委員会への出席以外に次の行事等に出席しました。

○市議会

- ・本会議（教育長）
- ・予算特別委員会、決算特別委員会、各常任委員会等（教育長）

○総合教育会議（第1回：8月8日、第2回：12月9日）

○学校訪問（7月1日・5日・7日・8日・11日・15日）

○各種学校行事

- ・小学校、中学校、義務教育学校入学式（4月8日）
- ・小学校、中学校、義務教育学校PTA総会（5月21日【書面決議】）
- ・学校オープン：6月（9校）、10月（4校）、11月（8校）、12月（6校）
- ・小学校運動会（9月17日・18日）、中学校・義務教育学校体育大会（9月10日）
- ・小学校、中学校、義務教育学校発表会
- ・学校経営研修会（5月13日、5月19日、6月14日）
- ・加東市小中一貫教育研修会（8月4日、12月13日）
- ・小中学校卒業証書授与式（小学校3月23日、中学校・義務教育学校3月15日）
- ・校長会（教育長）

○各種会議及び研修会

教育長協議会

- ・兵庫県都市教育長協議会（第1回：5月25日・丹波篠山市、第2回：10月25日・養父市）

教育長会議

- ・市町組合教育委員会教育長会議（4月15日・神戸市）
- ・播磨東教育長会定期総会・播磨東地区教育長会議（7月20日・加古川市）
- ・播磨東教育長会第2回（2月20日、オンライン会議）

市町村教育委員会連合会

- ・兵庫県市町村教育委員会連合会常任理事会
（第1回：4月20日・神戸市、第2回：2月1日・神戸市）
- ・兵庫県市町村教育委員会連合会理事会・定期総会・研修会
（5月19日・猪名川町）
- ・全県夏季教育委員会研修会（8月18日～19日【オンライン受講】）
- ・播磨東地区教育委員会連合会・総会・研修会（8月3日・稲美町）
- ・播磨東教育長会・東播磨地区教育委員会連合会合同研修会
（11月30日、稲美町）

○その他行事等

- ・加東市二十歳の集い（1月8日）
- ・各種市内イベント・大会及び研修会等

3 基本理念と施策体系

基本理念を「人間力の育成」とし、「豊かな学びが 新しい自分と地域を育むまち 加東」の実現をめざすため、3つの基本方針に基づいて、16の基本的方向に向かって、それぞれの施策における取組を進めています。

基本理念

「人間力の育成」

～豊かな学びが 新しい自分と地域を育むまち 加東～

【めざす人間像】

- 夢や志を持ち、生涯を通じて学び続け、自立し力強く生きる人
- ふるさと
- 加東を愛し、共に支え合いながら、未来を切り拓いていく人

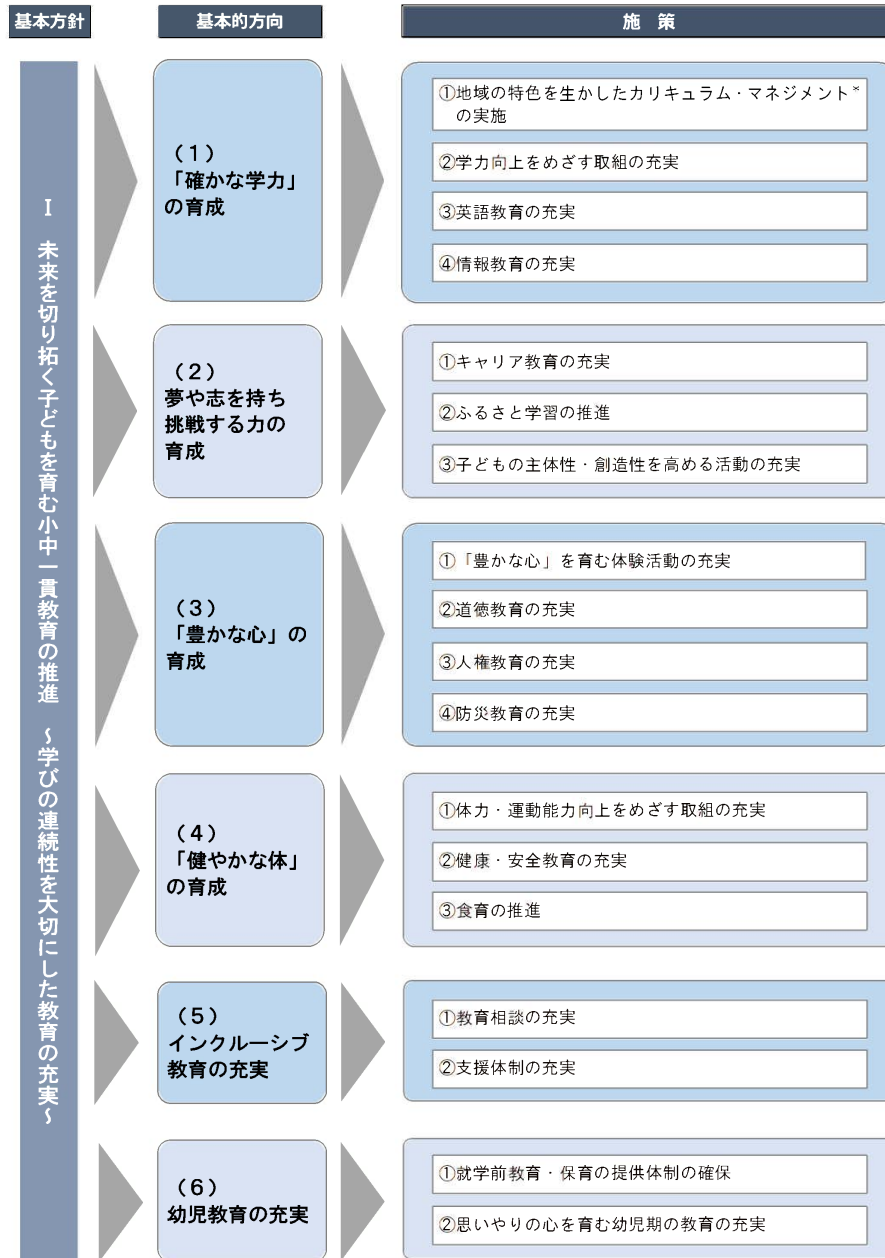
基本方針

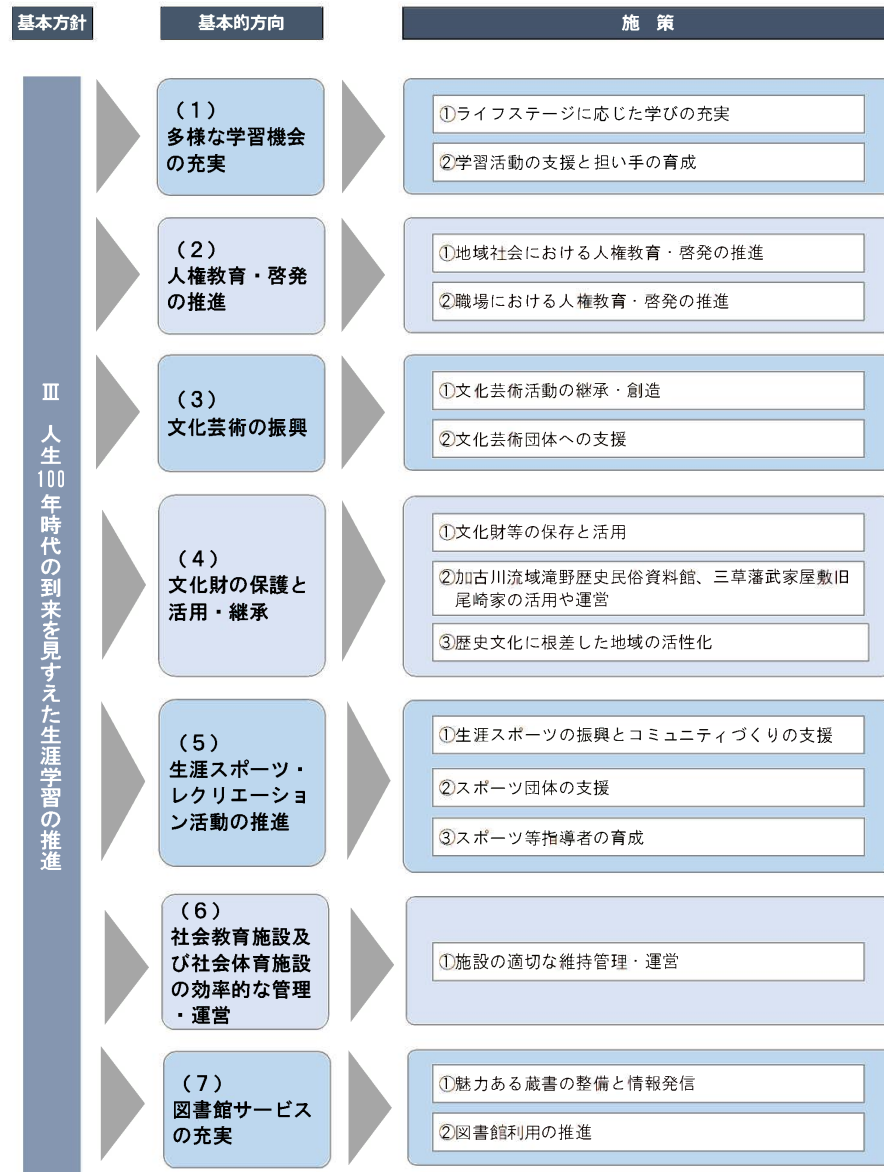
基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進
～学びの連続性を大切にした教育の充実～

基本方針Ⅱ 子どもの学びを支える教育環境の整備

基本方針Ⅲ 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進

施策体系





4 令和4年度 主要事業の点検と評価

第3期基本計画の施策ごとに、令和4年度の実施内容について点検し、その成果と課題を明確にするとともに、16の基本的方向ごとに設定した成果指標と取組指標の達成状況から、下記の基準で総合的に評価しました。

【基本的方向ごとの総合評価】

総合評価	評価の基準（成果指標の目標値達成状況）
A	すべての成果指標について、当該年度の目標値を達成。
B	当該年度の目標値を達成した成果指標の数が、半数以上。 もしくは、達成数は1以上半数以下であるが、上昇傾向（改善傾向）の成果指標の数が、過半数。
C	当該年度の目標値を達成した成果指標の数が、1つ以上半数未満。 もしくは、すべて目標値に到達していないが、上昇傾向（改善傾向）の成果指標の数が、半数以上ある。
D	すべての成果指標について、当該年度の目標値を未達成（Cに該当する場合は除く）。

※ 成果指標の目標値を設定していない年度の評価については、取組指標の達成状況により評価する。ただし、取組指標をすべて達成しても「B」、過半数の達成で「C」、それ以外は「D」とする。

※ 成果指標の設定数が1項目の総合評価は、目標値を達成していないが、上昇傾向（改善傾向）にある場合は「B」とする。

なお、成果指標の達成状況は、該当する年度の目標値と比較し、下記のように達成状況を示します。

【成果指標達成状況】

達成状況	評価の基準
☆	該当する年度における目標値を大きく上回った（改善した）。
◎	該当する年度における目標値を達成した。
↗	該当する年度における目標値を達成できなかったが、前年度と比較し上昇傾向（改善傾向）にある。
→	該当する年度における目標値を達成できず、前年度と変わらない。
↘	該当する年度における目標値を達成できず、前年度と比較し減少傾向（悪化傾向）にある。

※ 前年度と比較する場合において、本実施計画年度の初年度は基準値と比較する。

基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～

基本的方向（１）「確かな学力」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（１）「確かな学力」の育成				総合評価	B	
●学校の授業がわかると答える児童生徒の割合【肯定的回答】 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		84.0	85.0	86.0	87.0	88.0
実 績(%)	82.9	93.1	92.2			
達成状況		☆	◎			
●学校の授業以外で、平日に１時間以上学習する児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		74.0	75.0	76.0	77.0	78.0
実 績(%)	73.1	70.4	71.2			
達成状況		↘	↗			
●英検３級相当以上の英語力を有する中学３年生の割合 （英語教育実施状況調査（文部科学省）対象：中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		53.0	56.0	58.0	59.0	60.0
実 績(%)	46.0	48.3	52.7			
達成状況		↗	↗			
●収集した情報を整理して、発表資料を作成することが得意であると答える児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和２年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		30.0	35.0	40.0	45.0	50.0
実 績(%)	25.6	28.0	26.3			
達成状況		↗	↘			

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－(1)－①	担当課	学校教育課・小中一貫教育推進室
施 策	①地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施		
取 組	取組1 カリキュラムの実践と公開		
	取組2 カリキュラムの改訂		
	取組3 乗り入れ授業		
令和4年度の 取組内容	9年間を通した系統性・連続性のある加東市小中一貫教育教科カリキュラムや総合的な学習の時間のカリキュラムをもとに、3地域ごとに小中一貫教育グランドデザインや、各校での年間指導計画を作成し、活用した。また、東条学園小中学校では、専門性を生かした乗り入れ授業を推進し、社地域・滝野地域では、小中一貫校開校に向け、小学校と中学校の教員による相互の出前授業を行った。		
令和4年度の 取組成果	小中一貫教育教科カリキュラムに基づき、小学校教員と中学校教員の相互乗り入れ授業や出前授業を行う中で、9年間の系統性・連続性を意識した授業研究が深まり、教員の授業力の向上につながった。また、地域ごとに毎年見直しているグランドデザインを保護者に周知することで、小中一貫教育への理解を図るとともに、地域と目指す子ども像を共有し、地域とともにある学校づくりへ向けた機運を醸成できた。		
令和5年度の 課 題	小中一貫教育教科カリキュラムに基づいた授業づくりを促進させるために、引き続き、相互乗り入れ授業や出前授業の成果を教職員へ周知するとともに、グランドデザインやカリキュラムの改訂を行う。また、小中一貫教育教科カリキュラムとふるさと学習「かとう学」とのつながりを明確にすることで、教科横断的な学びを通して、ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもの育成を図る。		

施策体系コード	I－(1)－②	担当課	学校教育課
施 策	②学力向上をめざす取組の充実		
取 組	取組1 授業改善及び教員の指導力向上		
	取組2 一人1台パソコンを活用した「児童生徒一人ひとりに合った学び」の実現		
	取組3 学習習慣の定着と家庭学習の充実		
令和4年度の 取組内容	学力向上プロジェクト委員会において、全国学力・学習状況調査や市独自の総合学力調査等の分析結果から中学校区ごとの課題を共有し、小中学校両方で課題を踏まえた授業改善に取り組むことを確認した。 加東市独自の総合学力調査を小学3年生から中学2年生を対象に実施し、その結果を復習や発展学習に活用した。また、個別最適な学習の場を保障するために、一人1台パソコンを活用して、苦手な学習にも取り組んだ。放課後や長期休業中の自主学習、毎日の家庭学習を継続して、学習習慣の定着を図った。		
令和4年度の 取組成果	各校での課題を踏まえた授業改善や校内授業検討会を通じて、教員の指導力向上を図った。経年比較ができる総合学力調査を実施して、児童生徒自身が、苦手な学習課題を克服しようとするきっかけに着手した。 長期休業中の自主学習室に参加した児童生徒の9割が家でも自主学習をしたいと回答し、家庭での学習意欲の向上が見られた。		

令和5年度の課題	全国学力・学習状況調査及び加東市総合学力調査の結果分析を踏まえた授業改善や学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。また、児童生徒が経年比較をすることで、これまでの自分を越えようとする学習意欲を喚起させて、自身の課題に向き合おうとする意識の向上を図る。
----------	--

施策体系コード	I－(1)－③	担当課	学校教育課
施策	③英語教育の充実		
取組	取組1 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育む活動の推進		
	取組2 コミュニケーション能力を育む英語授業の充実		
令和4年度の取組内容	児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を向上させるため、ALT 7名と小学校英語専科教員 6名を配置し、小中学校を通した CAN-DO リストや年間指導計画に基づいてコミュニケーション能力を育む英語授業づくりに取り組んだ。 英語授業の充実を目指して、小中義務教育学校の外国語担当教員と連携し、ALT 授業研修会を実施した。また、主体的にコミュニケーションを図るため、オールイングリッシュで活動を行う「わくわく英語村」を行った。		
令和4年度の取組成果	「わくわく英語村」を3日間行い、延べ72名の中学生が参加し、市内ALTを中心とした9名の講師と英語活動を通してコミュニケーション能力を育むことができた。 ALT 授業研修会では、小中義務教育学校の外国語担当教員と共に発話を基にした実践や授業計画、授業中の立ち位置、表情、発話量、誉め言葉、声掛けのタイミング等、ティームティーチングの効果的な指導方法について研究し、実践指導力の向上を図ることができた。		
令和5年度の課題	「わくわく英語村」への参加者を増やすとともに、より主体的なコミュニケーションを行う英語活動の工夫に取り組む。 ALTを含めた小中連携の授業改善研修を行う。かとう英語ライセンス制度やGTEC Juniorの効果的な活用をすすめる。また、英検にチャレンジする生徒を増やすため、英語科で計画的な指導を進める。		

施策体系コード	I－(1)－④	担当課	学校教育課
施策	④情報教育の充実		
取組	取組1 児童生徒一人1台パソコンの活用		
	取組2 情報モラル教育の推進		
令和4年度の取組内容	インターネットによる調べ学習、授業支援ソフトや学習アプリを使った協働学習、一人1台パソコンを使った個別学習の推進を行った。 また、市立全学校教員向けに「主体的・対話的で深い学びに向けたICT機器の効果的な活用研修」を計4回行った。教育用pepperを活用し、プログラミング学習や探求型学習を行うとともに情報モラルの涵養を図った。		
令和4年度の取組成果	一人1台パソコンの授業支援ソフトや学習アプリを使うことで、多様な協働学習、プログラミング的思考を育む学習活動、主体的に予習復習に臨む自主学習や探求型学習を実施し、情報教育の充実を図ることができた。 また、「主体的・対話的で深い学びに向けたICT機器の効果的な活用研修」に延べ234名の教員が参加し、教育用pepperの操作方法や機器の効果的な活用方法、情報モラル教育について研鑽を積んだ。		

令和5年度の 課 題	日々進化する ICT 関連の授業支援ソフトや学習アプリについて、積極的に活用するため、新たな研修を計画する。児童生徒が多様なアプリを効果的に活用し、様々な情報を適切に収集、自分の考えを表現できるよう、さらなる情報活用能力の育成を図る。
---------------	---

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(1)－②		校内授業検討会を実施した1校あたりの回数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(回)		5	5	25	25	25
実 績(回)	—	5	6			
施策体系コード I－(1)－③		英検検定料助成を利用した中学生の割合 (実用英語技能検定(英検))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		58.0	61.0	64.0	67.0	70.0
実 績(%)	55.3	57.3	68.2			
施策体系コード I－(1)－④		一人1台パソコンを活用した教科数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値 (教科数)		全教科	全教科	全教科	全教科	全教科
実 績 (教科数)	—	全教科	全教科			

基本的方向（２）夢や志を持ち挑戦する力の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（２）夢や志を持ち挑戦する力の育成				総合評価		C
●将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		64.0	66.0	68.0	70.0	72.0
実 績(%)	62.1	52.1	39.3			
達成状況		↘	↘			
●ふるさと学習を通じて、ふるさとを大切にしたいという気持ちが芽生えた児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小３、小４）						
年 度	基 準 値 (令和２年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		88.0	89.0	90.0	91.0	92.0
実 績(%)	87.9	85.7	82.9			
達成状況		↘	↘			
●地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		21.0	24.0	26.0	28.0	30.0
実 績(%)	18.1	36.9	24.2			
達成状況		☆	◎			
●難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しようとしている児童・生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (平成２９年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		35.0	37.0	39.0	42.0	45.0
実 績(%)	32.6	28.7	21.4			
達成状況		↘	↘			

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－(2)－①	担当課	学校教育課
施 策	①キャリア教育の充実		
取 組	取組1 キャリア発達を促す取組の充実		
	取組2 社会に触れる機会の充実		
令和4年度の 取組内容	過去の自分を振り返り、新たな学習活動への意欲につなげるため、自身の変容や成長を自己評価できるキャリアパスポートを、学年間だけでなく小中高の校種間で持ち上がった。 トライやる・ウィークでは、3年ぶりに事業所を介した5日間の活動を実施した。		
令和4年度の 取組成果	キャリアパスポートを活用することで、児童生徒が自身の変容や成長を自己評価できただけではなく、家族・友達・社会とのつながりを、以前より認識できるようになった。 トライやる・ウィークを通して、人や社会とのつながりを再認識し、今後の自分の生き方や人との関わりについて考えることができた。「人とふれあうことの楽しさ」を感じた生徒の割合が55.3%へと上昇した。(R3:51.4%)		
令和5年度の 課 題	今後も小中高が連携して、キャリアパスポートの校種間の持ち上がりを行い、小学校から高等学校までの12年間を通した系統的な指導を行う必要がある。 トライやる・ウィークでは、生徒の希望に沿った事業所を確保するとともに、事業所を介した活動を継続することで、社会と主体的につながる機会を設定する。 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が下がっているため、専門の外部講師を招聘し、プロフェッショナルの高度な技能を授業等に取り入れ、児童生徒の夢に向かう力を育む機会をつくる。		

施策体系コード	I－(2)－②	担当課	学校教育課・小中一貫教育推進室
施 策	②ふるさと学習の推進		
取 組	取組1 ふるさと学習「かとう学」の実践		
	取組2 ゲストティーチャーの積極的活用		
令和4年度の 取組内容	各学校や教科担当者会でふるさと学習「かとう学」副読本を活用した授業実践に取り組むとともに、その実践をまとめた「授業実践事例集」を作成し、各校へ配布した。さらに、総合的な学習の時間やクラブ活動等において、地域住民を講師として招聘した。加東遺産めぐりや疏水学習などの校外学習において、ゲストティーチャーに講話をいただいた。		
令和4年度の 取組成果	ふるさと学習「かとう学」副読本を授業で活用することで、各教科の内容とふるさと加東とのつながりを意識することができ、地域の教育資源を活用した教育活動につながった。また、地域とのつながりを持つことで、各教科の内容の理解が深まるとともに、ふるさとについての新しい発見や愛着の醸成につながった。 ゲストティーチャーから、昔の様子や仕事の工夫、苦労など、詳細な話を聞くことができ、児童生徒の関心や意欲を喚起するだけでなく、キャリア教育にもつながった。		

令和5年度の 課 題	ふるさと学習「かとう学」副読本を活用した授業実践事例集を各校へ配布し、さらなる活用につなげる。ふるさとを大切にする意識を育むため、教師が授業実践で活用した資料を積極的に収集して共有することで、かとう学の推進を図る。 また、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域とのつながりを持続できるよう工夫するとともに、単元のめあてに合ったゲストティーチャーを確保することが必要である。
---------------	--

施策体系コード	I－(2)－③	担当課	学校教育課
施 策	③子どもの主体性・創造性を高める活動の充実		
取 組	取組1 縦と横のつながりを意識した交流		
	取組2 発達に応じた学校行事		
令和4年度の 取組内容	新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、異学年やステージごとの交流活動を実施した。 東条学園小中学校では、体育大会や文化祭、前期課程修了証書授与式などで、児童生徒の意見を取り入れながら、ステージや節目を意識した学校行事を行った。 社地域・滝野地域では開校を見据え、自然学校や人権教育講演会、社会見学等を地域ごとに行い、学校間交流を行った。		
令和4年度の 取組成果	東条学園小中学校では、第Ⅰステージのリーダーである4年生の自主性やリーダーシップの育成が図ることができ、第Ⅱステージの5・6年生にとっては、後期課程生徒の姿を間近に見ることで、目標となる生徒像を具体的に意識することができた。第Ⅲステージの9年生は、最高学年として学校行事を自ら考え、運営する姿が多くみられた。 社地域の5小学校では、研究指定校（福田小）が中心となり、学年ごとに交流内容を考え、全ての学年で5校交流を行うことができた。他校の児童の思いを理解し、社学園が開校する際の不安軽減につながった。		
令和5年度の 課 題	「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」時代の学校行事をどのように実施し、持続可能なものにするか検討する必要がある。また、学校、家庭、地域が「学びを止めない」という共通認識のもと、地域と共にある学校づくりをどう推進するか知恵や工夫を出し合うことが必要である。 これまでの学校行事の運営方法について検証し、小・中・義務教育学校のステージの利点を活かした教育活動を実践できるようにする。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(2)－②		かとう学副読本を活用した教科数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値 (教科数)		全教科	全教科	全教科	全教科	全教科
実 績 (教科数)	—	9教科	9教科			
施策体系コード I－(2)－③		各ステージ間の交流回数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(回)		3	3	3	3	3
実 績(回)	—	3	5			

基本的方向（３）「豊かな心」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（３）「豊かな心」の育成				総合評価	D	
●人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		81.0	82.0	83.0	84.0	85.0
実 績(%)	80.3	75.3	71.0			
達成状況		↓	↓			
●自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
実 績(%)	39.0	35.3	31.5			
達成状況		↓	↓			
●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３） ※基準値は小６のみ						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		54.0	58.0	62.0	66.0	70.0
実 績(%)	51.7	45.0	39.7			
達成状況		↓	↓			
●人が困っているときは、進んで助けをしていると思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		49.0	52.0	55.0	58.0	60.0
実 績(%)	46.0	55.6	51.5			
達成状況		☆	↓			

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（３）－①	担当課	学校教育課
施 策	① 「豊かな心」を育む体験活動の充実		
取 組	取組１ 環境体験・自然体験・芸術体験活動の実施		
	取組２ 職業体験活動・ボランティア活動の実施		
令和４年度の 取組内容	自然と触れ合う体験型環境学習として、小学校３年において環境体験学習を、小学校５年では、自然学校を２泊３日と２日間の活動に分けて実施した。また、中学校１年は、わくわくオーケストラ教室に参加し、芸術体験活動を行った。 トライやる・ウィークでは、３年ぶりに事業所を介して５日間の活動を行い、トライやる・ウィークの趣旨に沿った体験活動が実施できた。		
令和４年度の 取組成果	環境体験学習や自然学校、わくわくオーケストラを通して、本物に触れることで、感動する心、生命に対する畏敬の念、共に生きる心を育み、豊かな情操を培うことができた。 トライやる・ウィークでは、感染症対策を施しながら事業所での活動を再開することができた。地域とのつながりを再認識し、自分は地域に何ができるかを考えることができた。		
令和５年度の 課 題	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、一度に大人数で実施する体験を徐々に再開できるようにする。 体験活動の目標を明確にして、主体的に判断・行動し、問題を解決する力を育むプログラム等を検討する。		

施策体系コード	I－（３）－②	担当課	学校教育課
施 策	②道徳教育の充実		
取 組	取組１ 学校・家庭・地域と連携した道徳教育の推進		
	取組２ 道徳授業の充実		
令和４年度の 取組内容	授業参観や学校オープンの際に、全ての小・中・義務教育学校で道徳科の授業を家庭や地域に公開した。また、保護者アンケートを実施し、学校や家庭で身に付けてほしい道徳の内容を調査した。 道徳授業の充実に向けては、教員に対し道徳教育実践研修への積極的な参加を呼びかけ、実践力の向上を図った。		
令和４年度の 取組成果	学校における道徳教育について、アンケート結果から家庭や地域の９割を超える方々から道徳の授業に「満足している」（「やや満足している」を含む）という回答をいただいた。また、アンケートから得た保護者が願う「子供に身に付けてほしい力」を知り、共有することができた。 道徳教育担当だけでなく、幅広い教員が研修に参加し、道徳科における深い学びを目指す授業実践について、一つの教材に深く向き合うことで実践的な指導力の向上が図れた。		
令和５年度の 課 題	引き続き、家庭や地域に道徳科の授業を公開し、学校における道徳教育について、家庭や地域の方々の理解を得て、一体となって子どもを育てる必要がある。 児童生徒アンケートの結果から、道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合が下がっているため、指導のねらいに則した多様な指導方法を研究したり、児童生徒が物事を多角的・多面的に捉えたりして、自分自身のこととして考えを深められるよう、「考え、議論する道徳」の授業づくりを研究する必要がある。		

施策体系コード	I－（３）－③	担当課	学校教育課
施 策	③人権教育の充実		
取 組	取組１ 発達段階に応じた人権教育の充実		
	取組２ 多様性を認め合う共生の心の育成		
	取組３ 自分や他者の人権を尊重する教育等の推進		
令和４年度の 取組内容	小学５年生から中学３年生までを対象として、障害者、いじめなどの人権課題をテーマに、加東市立学校人権教育講演会を５会場で開催した。 また、教職員のスキルアップ研修では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、フィールドワークによる現地での研修はできなかったが、各校の人権教育担当者を中心に、人権・同和問題の解決に向けた見通しや展望についての研修会に参加した。 さらに、増加する外国人児童生徒の受入れや日本語指導の充実を図るため、多文化共生研修を実施した。		
令和４年度の 取組成果	講演会実施後のアンケートでは「決めつけた見方をしない」や「自分も行動できるようになりたい」との回答が見られ、人権課題を解決しようとする意識の変容や実践的な行動力の育成を図ることができた。 また、授業づくりにつながるような人権問題についての教職員の関心や理解をさらに深めることができた。 さらに、外国人児童生徒の受入れに当たり、児童生徒理解や日本語指導の基礎につながる理解が深まった。		
令和５年度の 課 題	加東市における外国人児童生徒等の増加が続いているため、外国人児童生徒の受入れや日本語指導の充実を図るとともに、多様性を認め合う共生の心を育むための教職員研修が必要である。また、外国人児童生徒等の生活上の様々な課題を克服するため、学校及び関係機関等が情報共有できる場を設定する。 今後も、児童生徒に対して様々な人権課題について外部講師による人権教育講演会の開催を継続し、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的な行動力を育成する。		

施策体系コード	I－（３）－④	担当課	学校教育課
施 策	④防災教育の充実		
取 組	取組１ 震災の教訓を風化させない、実践的な防災教育の推進		
	取組２ 助け合いやボランティア精神等共生の心の育成		
令和４年度の 取組内容	防災教育推進連絡会議を２回行い、各校の防災教育・防災訓練の実施方法について、情報共有することができた。また、防災課との連携により、地域防災について実践的な防災教育が推進できた。 全ての学校において、防災訓練を２回以上行い、主体的に判断し行動する力を育成することができた。１月１７日には、阪神・淡路大震災や身近な災害に関連する防災教育を実施し、助け合いやボランティア精神等の共生の心の育成に取り組めた。		
令和４年度の 取組成果	震災の教訓を学ぶため防災教育副読本「明日に生きる」を活用したり、様々な状況で即座に身を守る行動や対策をとるための避難訓練を行ったりするなど、命を守る実践的な防災教育を推進できた。 学校安全（防災）支援事業の気象災害モデル校の実践・取組を防災教育推進連絡会議で情報共有し、気象災害に関する防災教育・防災訓練の方法について、見直し点検することができた。		

令和5年度の 課 題	今後も、防災訓練等の機会を活用し、各校の実践事例を共有しながら、災害対応マニュアルを定期的に見直すことで、学校の防災体制を更に充実させる。防災訓練の場面想定等を工夫して、更に実践的な判断力を育成する。
---------------	--

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(3)－①		自然学校において、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する力が 高まったと回答する学校の割合 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実 績(%)	88.9	87.5	75.0			
施策体系コード I－(3)－③		小中学校人権教育講演会後の児童生徒の人権についての関心度 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		53.0	54.0	55.0	56.0	57.0
実 績(%)	51.9	54.7	40.6			

基本的方向（４）「健やかな体」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（４）「健やかな体」の育成				総合評価	D	
●自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間を持ちたいと思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		72.0	74.0	76.0	78.0	80.0
実 績(%)	71.1	64.4	59.2			
達成状況		↓	↓			
●不安や悩みがあったときに、相談できる人がいる児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和2年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		94.0	96.0	98.0	99.0	100.0
実 績(%)	92.3	90.7	89.5			
達成状況		↓	↓			
●朝食を毎日食べている児童生徒の割合 （全国学力・学習状況調査（文部科学省）対象：小６、中３）						
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		88.0	90.0	92.0	93.0	94.0
実 績(%)	86.7	79.7	83.0			
達成状況		↓	↗			

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（４）－①	担当課	学校教育課
施 策	① 体力・運動能力向上をめざす取組の充実		
取 組	取組１ 体力・運動能力の向上		
	取組２ 運動やスポーツの習慣化		
令和４年度の 取組内容	子どもの体力向上推進委員会において、体力・運動能力、運動習慣等の調査の分析結果から、加東市の課題を確認し、課題解決に向けた取り組みを検討した。また、小学生の運動への興味関心を高めるため、P E（体育）マスター派遣事業として、全小学校の体育授業へ社高等学校体育科生を派遣した。 部活動指導においては、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、加東市部活動指導方針に基づく適切な指導と運営ができるよう進めた。部活動指導員及び外部指導者を派遣し、部活動の活性化を図った。		
令和４年度の 取組成果	P E（体育）マスター派遣事業では、小学校の体育授業で高校生が見本を見せたり、個別のアドバイスをしたりすることで、児童が意欲的に高度な技能に挑戦する姿が見られた。小学校の教員にとっては、技能指導の向上につながった。 各中学校・義務教育学校（後期課程）の部活動では、部員不足でチームが組めない部があったが、他校と合同チームを編成し大会に参加することができた。ノ一部活デーを設定し、適切な休養日をとった部活動運営ができた。		
令和５年度の 課 題	子どもの体力向上推進委員会での分析結果や実践報告を教職員へ周知し、活用できるように工夫する。P E（体育）マスター派遣事業では、効果的な単元等で活用ができるようにする。 部活動の地域移行に向けた検討委員会を設置し、令和７年度から段階的に移行が進められるようにする。部活動指導員を増員し、地域移行に向けた準備を進める。		

施策体系コード	I－（４）－②	担当課	学校教育課
施 策	② 健康・安全教育の充実		
取 組	取組１ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施		
	取組２ 感染症予防のための正しい知識		
	取組３ 交通安全教室・防犯教室等を通じた安全意識の向上		
	取組４ 児童生徒のＳＯＳの出し方に関する教育等の推進		
令和４年度の 取組内容	薬物乱用防止教室を全市立学校で実施し、身近に迫る薬物の危険性について学ぶことができた。新型コロナウイルス感染症についての理解を深めながら、感染症対策についての指導を行った。 加東警察署からの交通安全情報を２８回発出して、学校へ啓発を行った。また、不審者対応訓練を実施し、１１校２,２０４名が参加した。 児童生徒アンケートの実施により、積極的に相談できるよう取り組むとともに、学級担任以外の教員がアンケートを実施する機会をつくり、教員との関係など、特定事案の相談が書きやすいように配慮した。また、学級活動や保健学習の中でＳＯＳの出し方教育を行った。		
令和４年度の 取組成果	薬物乱用防止教室の実施については、小学校でも定着してきた。新型コロナウイルス感染防止対策により、日常的に感染予防対策を実践する力が身についてきた。また、感染者の人権についても考えることができた。 交通安全については、集団での登下校や見守り隊などの協力により、規範意識が身に付いてきている。不審者対応訓練により、危険から身を守る方法を学ぶことができた。		

	積極的な相談対応により、各学校で早期発見・早期対応の組織的な対応が推進できた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談も積極的に進められた。
令和5年度の課題	感染症を理解し、正しい感染対策により、友達と安心して運動や学習ができるようにする。 交通安全については、帰宅後の自転車の乗り方など、1人でも交通ルールを守り、正しい判断で行動できるようにする。 自分だけでなく困っている友達にも目を向け、相談できるようにすることで、より良い人間関係をつくり、不登校児童生徒の登校を促したい。

施策体系コード	I－(4)－③	担当課	学校教育課、学校給食センター
施策	③ 食育の推進		
取組	取組1 地産地消による「楽しみのある学校給食特別メニュー」の提供		
	取組2 学校給食を活用した食育指導		
	取組3 「かとう和食の日」について啓発		
	取組4 学校給食センターでの体験学習		
	取組5 食育推進指定校による食育推進事業		
令和4年度の取組内容	地産地消を推進し、子どもたちに食べる楽しさを感じさせる機会とするため、主に地元産の食材を使用した「楽しみのある学校給食特別メニュー」を月に1回（年間11回）提供した。 日本人の伝統的な和食文化について見直し、和食文化の保護、継承の大切さについて考える日として制定された「和食の日」にちなみ、加東市においては「かとう和食給食の日」の取組を推進するため、学期ごとに和食をテーマにした献立の給食を提供した。また、各学校・学級において和食について学ぶ授業や活動を行うよう働きかけ、児童生徒が、日本古来の食文化のよさを知り、家庭でも保護者と共に和食を考える機会を与えた。		
令和4年度の取組成果	「楽しみのある学校給食特別メニュー」は、児童生徒から「給食で地元のことを知ることができた」と好評で、毎月の献立に期待を持たせる取組となった。 学期に一度のかとう和食給食の日（6月22日、11月24日、2月1日）に合わせ、各学校で和食をテーマにした様々な食育活動を実施し、その活動報告を行った。 和食の旨味の基本である「だし」を学ぶ実習で、自分たちで作っただし汁を飲み比べて意見交換をしたり、社高等学校生活科学科生が学校に出向き、児童生徒と共に和食について考える授業をしたりするなどの取組を行った。給食の献立で「まごはやさしいわ」という和食食材を表した言葉を紹介し、その日の給食で実際に使っている食材を探すことを教え、日常的に楽しみながら和食について考える習慣を身に付けることができた。また、「食育だより」の発行を通して、各家庭における食育の機会を提供することができた。		
令和5年度の課題	引き続き、「楽しみのある学校給食特別メニュー」の取組を進め、地元の特産を知り、地元に対する愛着を深める給食を提供する。 また、かとう和食給食の日の取組を進め、学校給食で効果的な食育を行い、子どもたちの食への興味関心を高めることで生きる力とするため、魅力ある学校給食の充実を図っていく。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(4)－①		毎日5分間以上、意識して体を動かしている児童生徒の割合(体育や部活動、登下校以外) (児童生徒アンケート(市)対象:小6、中3)				
年 度	基 準 値 (令和2年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		61.0	63.0	66.0	68.0	70.0
実 績(%)	58.7	48.4	47.9			
施策体系コード I－(4)－③		学校給食での加東市産食材の使用率 (副食(3品を対象))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		24.0	25.0	26.0	27.0	28.0
実 績(%)	23.0	25.1	25.3			
施策体系コード I－(4)－③		加東市産・兵庫県産食材を用いた年間献立率 (食材の内、献立に占める市産・県産の割合)				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		28.9	29.0	29.1	29.2	29.3
実 績(%)	25.0	25.7	25.1			

基本的方向（５）インクルーシブ教育の充実

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（５）インクルーシブ教育の充実				総合評価		B	
●児童生徒の自立割合（サポートファイルによる支援が不要になった児童生徒の割合） （市調査）							
年 度	基 準 値 （令和元年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		8.0	8.0	8.5	8.5	9.0	
実 績(%)	7.5	7.0	6.1				
達成状況		↓	↓				
●市民対象講演会に対する参加者の内容理解度（４段階評価の平均値） （参加者アンケート（市））							
年 度	基 準 値 （令和元年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値 （平均値）		2.7	2.7	2.7	3.0	3.0	
実 績 （平均値）	—	3.7	3.7				
達成状況		☆	☆				

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（５）－①	担当課	発達サポートセンター
施 策	① 教育相談の充実		
取 組	取組１ 相談事業		
令和４年度の 取組内容	発達検査・知能検査や発達相談を実施し、個々の特性を理解した上で支援した。 医師の発達相談は２２回、理学療法士の運動発達相談は５回、作業療法士の運動発達相談は２回、言語聴覚士の言語発達相談は７回、心理士の心理相談は１０回、発達検査は４７回、知能検査は４６回実施した。		
令和４年度の 取組成果	多職種による相談日を設けることで様々な相談に対応し、支援の必要な方がその人らしく生活できるようにサポートすることができた。		
令和５年度の 課 題	様々な相談を受けることができるように、医師をはじめとした多職種による相談日を確保する。		

施策体系コード	I－（５）－②	担当課	発達サポートセンター
施 策	② 支援体制の充実		
取 組	取組１ 療育事業		
	取組２ 巡回相談		
	取組３ 切れ目ない支援体制の確立		
	取組４ 現場での支援についての情報提供		
令和４年度の 取組内容	療育（未就園児対象の集団療育２３回、就学前の集団療育１０回、就学後の集団療育４回）を実施した。また、園や学校と連携し、センターの職員や専門家による巡回相談（園２５回、専門家派遣型教育相談１６回）を行い、支援の必要な子どもへの支援方法について助言した。また、家庭と関係機関が情報を共有し、一貫した支援を進めるためサポートファイルの作成を促した。 市民を対象にした発達障害の基礎的な研修を、２回開催した。 園・学校の職員に対しての研修は、５回開催した。		
令和４年度の 取組成果	集団療育により、療育事業を通じて個々の力を伸ばし、良好な人間関係を築くことができるよう支援することができた。また、サポートファイルについては、近隣市と情報交換会を開き、各市の状況や連携等について話し合った。		
令和５年度の 課 題	それぞれの取組について、より市民のニーズに沿った事業内容を検討していく。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－（５）－①		発達サポートセンターへの相談延べ件数 （市調査）				
年 度	基 準 値 （令和元年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値（件）		2,100	2,100	2,150	2,150	2,200
実 績（件）	2,022	1,896	1,927			